



# 遮光

織組織や糸などにより遮光性能をもたせ、一般社団法人日本インテリア協会(NIF)の定めた等級区分に従って表示しています。  
等級およびその状態表現を参考に、お望みの商品をお選びください。

## ■ NIF遮光マーク判定基準

遮光等級	遮光率(%) JIS L 1055 A法10万ルクス	照度に関する状態表現
遮光1級	99.99%以上	人の顔の表情が 識別できないレベル
遮光2級	99.80%以上 99.99%未満	人の顔あるいは 表情がわかるレベル
遮光3級	99.40%以上 99.80%未満	人の表情はわかるが 事務作業には暗いレベル

※遮光率は、小数点第三位を四捨五入。

※照度に関する状態表現については、照明学会編「ライティングハンドブック」に基づいています。

・本遮光率は生地遮光率を表すものであり、ローマンシェードの場合は、窓に対する生地大きさや本体の取付け方法によって、室内の照度は変動しますのでご注意ください。

・同じ等級でも遮光率により差があります。事前に商品の確認をおすすめします。

## ■ 遮光1級の区分表記

表 記	目視度合 (イメージ)	状態説明
遮光1級 (A++)		生地からほとんど光を感じません。
遮光1級 (A+)		生地からわずかに光を感じます。
遮光1級 (A)		生地から光を感じるが、 生地の織り組織や色は分かりません。
遮光1級 (B)		生地から光を感じ、 生地の織り組織や色が分かります。
遮光1級 (C)		生地全体は薄明るく見えるが、 人の表情が識別できない暗さです。

NIF機能性表示マークの一つである「遮光マーク」は、照度計を用いたカーテンの遮光性試験方法(JIS L 1055)により、遮光率99.40%以上のカーテンや布製ブラインドに表示することができます。中でも遮光率99.99%以上の遮光1級は「人の表情が識別できないレベル」の暗さを担保しています。一方、人の視覚は非常に敏感で、かすかな光も捉えることができます。NIFではお客様が期待する暗さ「本当に真っ暗」のイメージにより近づくため、「目視による明暗を指標」とする遮光カーテンの遮光性評価方法に基づき遮光1級の区分表記をしております。

※NIFは(一社)日本インテリア協会の略称です。

### ◇遮光カーテンの遮光性評価方法

暗室内の電照パネル上に遮光1級のカーテンなどの試験体をかざし、全体的な光の透過の見え方、光漏れの有無や多寡を目視で判定し、光を遮蔽する度合により区分します。

## ■ 日中における室内の明るさイメージ

カーテンは機能上、窓との間にある程度の間隔が必要です。そのため、カーテンの上部、下部、サイドから光が漏れます。遮光効果をできるだけ発揮させるためには、カーテンボックスを使用し、サイドをリターン式にし、丈も床に充分つく長さにしてください。この際、カーテンボックスに上飾りを用いれば、さらに効果がアップします。尚、両開きカーテンには交差レールの使用をおすすめします。



### 遮光1級

(遮光率99.99%以上)



### 遮光2級

(遮光率99.80%以上、99.99%未満)



### 遮光3級

(遮光率99.40%以上、99.80%未満)



### 非遮光

## ■ リターン付きカーテン

カーテンサイドにリターンを付けることで光漏れを防ぎ、遮光性を高める縫製仕様です。

